

あんどおりすの防災四季だより

第39回 放送日：2019.12.27（金）

パーソナリティー：あんどおりす



テーマ：災害時の乳幼児栄養 2

「命を守る」という大切なことに役立つのは、
アウトドアのスキル。

阪神大震災を被災した「あんどおりす」さんが、
防災・減災の方法を楽しく導きます。

妊娠出産は、女性の権利

災害避難所は、
母乳を与え続けることができる環境を
保障すること

国際基準を知っておこう





今回も、
災害時の乳幼児栄養のお話を
したいと思います。

前回は、
母乳に対するフィンランドでの考え方、

母乳を与える事が義務とは、
誰も思っていない。

液体ミルクのラベルに、
母乳のことが書かれているが、
それについて、
重荷を感じない雰囲気がある。

というお話をしました。



世界の 男女平等ランキング

フィンランド大使館の方にお話を聞いてみますと、

世界の男女平等ランキングで、
フィンランドが第4位。
日本はというと、110位なんですね。(※)

(※) 昨年の順位。
番組収録後、12月17日に世界経済フォーラム(WEF)から、
2019年の「ジェンダー・ギャップ指数」が発表された。
調査対象153カ国のうち、日本は121位。
ジェンダー・ギャップ指数とは、
世界各国の男女平等の度合いをランキングしたもの。



フィンランド大使館の方の 講演

普段から
女性はとても大切にされていて、

例えば、
内閣は、女性大臣が半数を占めるそうで
す。

この女性大臣の中のある方が国会議員に
なる時に、

妊娠中だったのだそうです。



妊娠中ですが、何か!?

妊娠中の人が国会議員になるというと、何かしら議論が起こりそうな感じがしますが、

議論は一切無しとのこと。

この方の政党が与党だったので、妊婦さんが大臣になりました。

大臣になる際にも、

出産するのに、どうなるんだ？
という話も、
一切なかったそうです。





実際、
出産される時には、

その政党の別の方が、
代理で大臣をすることになったのです。

そのことが、新聞記事に、
1、2行 ちよろっと書かれただけで、

やっぱり議論は一切無し。
という事でした。





女性が妊娠したり、
出産したりするのは、当たり前「権利」。

という事なので、
だれもとやかく言わない。

そのような雰囲気、
そもそもあるのだとお聞きしました。

わ、すごいな～ ! \ (◎o◎) /

日本とは考え方からして、全く違うな。
と感じました。



大学の学費が無料

ちなみに女性大臣らは、
平均年齢40才代くらいだそうです。

その中のおひとりは、
貧困家庭で育った方だそうです。



フィンランドでは
大学の学費が全部無料だったので、
それで私は勉強することができ、大臣に
もなれた。

だから、フィンランドのこの教育制度を
続けていきたい。

という事で大臣になられたそうです。

フィンランド大使館の方の講演を聞いて
いた人達は、皆、

「はー」とため息をついたり、
「いいなあ」というようなまなざしでした。



女性が尊重されている という事とは

女性の地位が尊重されていると、
母乳の話が出て、

「権利」であったり、
エビデンス(証拠)情報として捉えます。



母乳と言われて、

「あなたは出さなきゃ」とか、
「出さないのは悪い」など、

そういう話には一切ならないんだな。

という事をつくづく感じました。





災害時の国際基準

フィンランドだけではなく、

世界には、「災害時の国際基準」(※1)というものがあります。

(※1)

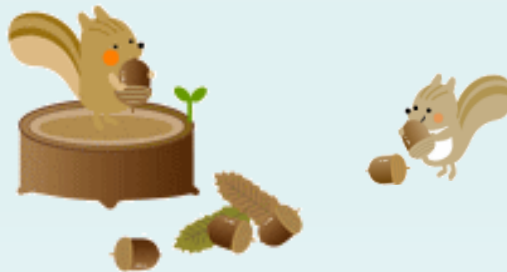
災害時の乳幼児栄養救援活動の国際ガイドライン(OG-IFE)

WHO(世界保健機関)、UNICEF(国連児童基金)、
WFP(国際連合世界食糧計画)、
UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)などの、
国連機関や複数の人道援助団体からなるネットワークが発行した、
災害時の乳幼児栄養救援活動の国際ガイドライン。活動の手引き。

<http://gdr.org/2019/07/1523/>

国際基準研究会

<http://gdr.org/wordpress/wp-content/uploads/2019/07/junyushien.pdf>



「権利」を守る為のもの

例えば、
母乳を与えている人には、
母乳を与え続けられることを保障してあげ
なさい。

ミルクを与えている人には、
ちゃんとミルクが行き届くようにしましょう。

とあります。

母乳やミルクの話が出てくるのですが、
どちらも人の「権利」を守る為のものです。

災害時、
母乳を出さなければいけない。

などという話では、
全く無いのです。



そのようなことが
ちょっと日本で紹介されたりすると、

なんで母乳ばかりなんだ！
などという事になります。

例えば
スプーン1杯くらいでも、
母乳をあげることができるの良いですよ。

免疫成分があるので、
インフルエンザや、ノロウイルスなどの、
感染症が流行っていても、
赤ちゃんを守ることができますよ。

というようなことが書いてあったりすると、

私は、母乳を与えることができない。と、
すごく傷ついてしまうんですね、日本だと。



国際基準とのギャップ

国際基準は、
(災害時の乳幼児栄養救援活動の国際ガイドラインは、)

誰かを傷つけるためにあるのではなく、

母乳でもミルクでも、

子に与えたいと思った人が
与えられるように。

という考え方なのです。



もし母乳を与えていなくても、
全くあなたは悪くない。
それを「義務」だと思わなくても大丈夫。



という事が前提になっています。

逆に、
母乳を与えている人には、
ミルクを届けなくても良い。

勧めてはいけません。

と、言っています。

日本の一般的な意識との違いを、強く感じました。



止まるのは、一時的

災害時などには、母乳が止まる。と
思われていることが多いのですけれ
ども、

それには素晴らしいシステムがある
のです。

WHO(世界保健機構)や、
ユニセフが、
どのように説明しているかというと、

こうです。





母子が野生動物などに襲われそうになった時、
迫る危険や敵から逃げる時に、

母体は、乳を押し出すホルモンを
一時的に止めます。

母乳は作られ続けているけれど、
押し出せなくするのです。

今はおっぱいをあげてる場合ではないから、
安心できる場所に逃げなさい。
というわけです。

そういうシステムなので、
安心した場所を提供してあげることが、
とても重要です。

と言っています。



なぜミルクを与えては いけないのか？

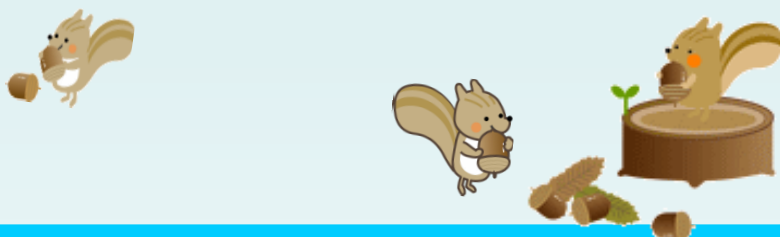
それでは、
母乳が押し出せないその時に、
なぜミルクをあげてはいけないのか？

赤ちゃんがたくさんミルクを飲んでしまうと、

母体は、
もう乳を作らなくてもいい。
もう、母乳はいらなくなったんだ。
というふうに判断します。

そうすると、
母乳が本当に止まってしまう可能性がある
のです。

避難先では、直ぐにミルクを与えるのでは
なく、
安心して授乳できる場所を提供しなさい。
という事を強く言っています。



安心して授乳できる場所

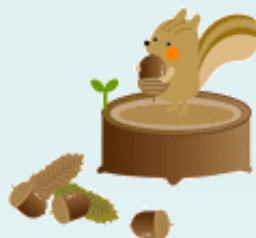
日本の避難所は、
残念ながら
難民支援の基準以下だと言われるような、
ひどい状況にあったりします。



そうするとやはり、
ストレスが多いということもあり得ますよね。

母乳をあげたくても、ちょっと緊張しちゃう。

そういった人たちには、
母乳が与え続けられるような安心できる環境
が必要です。





安直にミルクを勧めたりするのではなく、

母乳の人には、
今まで通りに母乳を与えられるように。

ミルクの人には
ミルクが優先的に届けられるように。

という政策を国際基準はしています。

前提として、
「女性の権利」をきちんと認めている。という事
を
知っておいていただければと思います。





「災害時の乳幼児栄養」の話は、

私のホームページで、
分かりやすい漫画でも公開しています。

ダウンロードできますので、
「あんどうりす」で、検索してご覧ください。

<https://www.facebook.com/andorisu/>

母と子の育児支援ネットワーク
<https://i-hahatoko.net/?p=1165>



(TEXT/はしも)